高知学園大学・高知学園短期大学紀要　第56号（2026）：19－30

総説論文

認定絵本士養成講座が育む保育者の専門性
―先行研究のレビューに基づく教育的意義の考察―

伊達　諒[1]*

要約：本研究の目的は，保育者養成校（保育士養成校・幼稚園教諭養成校）における認定絵本士養成講座の教育的意義を，先行研究のレビューを通じて明らかにすることである．保育者を目指す学生が，認定絵本士養成講座を受講することにより，①子どもの発達段階に応じた絵本との関わり方に基づく「保育技術力」，②絵本の読み聞かせ方法に裏づけられた「表現力」，③就職後に保護者や同僚へ絵本活動を展開する際に必要となる「コミュニケーション力」を修得できることが示された．絵本は幼児期における言語発達，想像力，表現力の形成に重要な役割を果たし，保育所保育指針や幼稚園教育要領においても「言葉による伝え合い」として明確に位置づけられている．さらに，資格の取得は，保育における専門性の向上に寄与することに留まらず，学生自身のキャリア形成，さらには読書活動の推進や地域貢献といった多面的への広がりが期待できることが示唆された．今後の課題は，実際の学生，現職保育者，子どもの視点から効果を検証する実証的研究の蓄積が求められる．

キーワード：認定絵本士，保育者養成校，絵本，保育者の専門性，ナラティブレビュー

Ⅰ．研究の目的と背景

本研究の目的は，保育士養成校および幼稚園教諭養成校（以下，保育者養成校）における認定絵本士養成講座（以下，養成講座）にかかる先行研究の概観を行い，養成講座を受講することにより期待される教育的意義について明らかにすることである．

保育者養成校では主に，０歳～就学前の子どもが通所する保育所への勤務に必要となる「保育士資格」の取得および，３歳～就学前の子どもが通園する幼稚園への勤務に必要となる「幼稚園教諭免許状」の取得に関する教育が挙げられる．

今日では，保育所・幼稚園にて勤務する保育士および幼稚園教諭は，慢性的に人員不足の状況であり，2023（令和５）年の有効求人倍率は，2.67倍（保育士）および2.49倍（幼稚園教諭）と全職種の1.19倍に対して高い数値となっている．2025（令和７）年には，3.78倍（保育士）に上昇しており，全職種1.34倍と比べても人員不足であることには変わらない．特に保育士の有効求人倍率は，2016（平成28）年より2.0倍を超える数値を推移している状況であり，幼稚園教諭についても，2018（平成30）年より保育士と同様の推移が見られている状況である．そこで，保育者養成校は，学生が「保育士」および「幼稚園教諭免許状」を取得できるように「教育」と「援助」を行い，卒業後に，保育所および幼稚園への就職に繋げることが今日的な課題である．

[1]高知学園短期大学　幼児保育学科　*Email: rdate@kochi-gu.ac.jp

では，養成講座が柱としている「絵本」は，保育所・幼稚園において，どのような位置づけとされているのか．

保育所は，「保育を必要とする子どもの保育を行い，その健全な心身の発達を図ることを目的とする児童福祉施設であり，入所する子どもの最善の利益[1]を考慮し，その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない」と位置づけている[2]．

保育所にて勤務する保育士は，児童福祉職の一つであり，子どもの最善の利益を考慮するために，子どもの発達段階，子どもの家庭状況および子どもが居住する地域の状況など，多くの情報を正確に把握し，一人ひとりの子どもに応じた保育を行うことが必要となる．そのため，保育士には倫理観に基づく専門的知識・技術および的確な判断が要求され，常に専門性の向上を図ることが求められる．

では，保育所で勤務する保育士に求められる専門性とは一体どのような内容が示されているのか．保育所にて実施される保育の内容は，児童福祉施設の設備及び運営に関する基準（昭和23年厚生省令第63号）第35条の規定に基づき，保育の内容に関する事項及びこれに関連する運営に関する事項を「保育所保育指針」として示している（表１）．

保育所保育指針「第１章　総則　幼児教育を行う施設として共有すべき事項」では，幼児期の終わりまでに育成が望まれる姿の一つとして「言葉による伝え合い」を挙げ，次のように示している．「保育士等や友達と心を通わせる中で，絵本や物語などに親しみながら，豊かな言葉や表現を身に付け，経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり，相手の話を注意して聞いたりし，言葉による伝え合いを楽しむようになる」．

この姿を目指すために，保育の内容において，１歳以上３歳未満児の保育に関わるねらい及び内容では，「絵本や物語等に親しむとともに，言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる」「絵本や紙芝居を楽しみ，簡単な言葉を繰り返したり，模倣をしたりして遊ぶ」と示している．

同様に，３歳以上児の保育に関するねらい及び内容では，「日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに，絵本や物語などに親しみ，言葉に対する感覚を豊かにし，保育士等や友達と心を通わせる」「絵本や物語などに親しみ，興味をもって聞き，想像をする楽しさを味わう」と示している．

このように，保育所における絵本は，日常生活での言語的コミュニケーション形成に重要な役割を果たしている．絵本を通じて『言葉』や『物語』に触れることにより，言語の獲得と，言葉を活用した想像力の育成が可能となる．保育所では，幼児が豊かな言葉や表現力を習得できるように，日々の保育実践にて「絵本」を取り入れることを基本としている．言葉の発達は，喃語から始まり，一語文，二語文，三語文へと段階的に進展する．しかし，言語の発達には，顕著な個人差が存在し，特に１歳～５歳までの幼児期においては，低年齢になるほど，月齢による個人差が大きく見られる．したがって，特に１歳から３歳未満の幼児においては，保育士による絵本の読み聞かせが言語発達に重要な役割を果たすと考えられる．これは，保育士が語りかける物語や言葉のイントネーションなどの音声的特徴が，幼児にとって模倣のモデルとなるためである．そのため，保育士による絵本の読み聞かせは，言葉の発達を促進する基盤の形成に留まらず，情緒的な関わりを伴う身近なコミュニケーションの一つであり，専門性の一つであると考えられる．

学校教育法第22条において，幼稚園の目的は「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして，幼児を保育し，幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて，その心身の発達を助長すること」と規定されている[3]．この目的を達成するための方策の一つとして，同法第23条第４項では「日常の会話や，絵本，童話等に親しむことを通じて，言葉の使い方を正しく導くとともに，相手の話を理解しようとする態度を養うこと」が示されている[4]．

表１．保育所保育指針と幼稚園教育要領における絵本の位置づけ（保育所保育指針・幼稚園教育要領を元に筆者作成）

保育所保育指針	幼稚園教育要領
第１章　総則 ４　幼児教育を行う施設として共有すべき事項 (2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ケ　言葉による伝え合い 保育士等や友達と心を通わせる中で，絵本や物語などに親しみながら，豊かな言葉や表現を身に付け，経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり，相手の話を注意して聞いたりし，言葉による伝え合いを楽しむようになる.	第１章　総則 第２　幼稚園教育において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 (9) 言葉による伝え合い 先生や友達と心を通わせる中で，絵本や物語などに親しみながら，豊かな言葉や表現を身に付け，経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり，相手の話を注意して聞いたりし，言葉による伝え合いを楽しむようになる.
第２章　保育の内容 ２　１歳以上３歳未満児の保育に関わるねらい及び内容 エ　言葉 （ア）ねらい ③絵本や物語等に親しむとともに，言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる. （イ）内容 ④絵本や紙芝居を楽しみ，簡単な言葉を繰り返したり，模倣をしたりして遊ぶ.	第２章　ねらい及び内容
３　３歳以上児の保育に関するねらい及び内容 エ　言葉 （ア）ねらい ③　日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに，絵本や物語などに親しみ，言葉に対する感覚を豊かにし，保育士等や友達と心を通わせる.	言葉 １　ねらい (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに，絵本や物語などに親しみ，言葉に対する感覚を豊かにし，先生や友達と心を通わせる.
（イ）内容 ⑨　絵本や物語などに親しみ，興味をもって聞き，想像をする楽しさを味わう.	２　内容 (9) 絵本や物語などに親しみ，興味をもって聞き，想像をする楽しさを味わう.

幼稚園の教育課程その他の保育内容は，学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第38条の規定に基づき，幼稚園教育要領（平成20年文部科学省告示第26号）に示されている（表１）．幼稚園教育要領「第１章　総則　第２幼稚園教育において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」による「言葉による伝え合い」では，「先生や友達と心を通わせる中で，絵本や物語などに親しみながら，豊かな言葉や表現を身に付け，経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり，相手の話を注意して聞いたりし，言葉による伝え合いを楽しむようになる」と示されている．

この姿を目指すために，幼稚園教育要領「第２章　ねらい及び内容　言葉」では，ねらいに「日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに，絵本や物語などに親しみ，言葉に対する感覚を豊かにし，先生や友達と心を通わせる」と示されている．内容には，「絵本や物語などに親しみ，興味をもって聞き，想像をする楽しさを味わう」と示している．

上記を整理すると，幼稚園教育要領における絵本の位置づけは，幼稚園教育の一部である「言葉」において，「絵本」が子どもの教育に重要な

役割を示しており，絵本を通して，「言葉の獲得」と「言葉を活用した想像力」を育むことができるものである．保育所と同様に幼稚園においても，「絵本」の位置づけは，幼児が豊かな言葉や表現力を習得することを目的にしているものである．また絵本はこの言葉を習得することで，他者とのコミュニケーション（話を聞く，自分の考えや想いを相手に伝える等）へと発展させることに不可欠な存在でもある．

このように，保育所および幼稚園の目的には，言葉による伝え合いが示されている．この目的を達成するために，絵本は，「言葉の獲得」「言葉を活用した想像力」を身に付けることができる身近な教材の一つである．そのため，保育士・幼稚園教諭（以下，保育者）が，多くの絵本を子どもたちへ読み聞かせなどを行うことで，保育所保育指針や幼稚園教育要領の目的を達成することに留まらず，言葉によるコミュニケーション能力の獲得，保育者や友だちとの輪が広がることにつながることが見込まれる．

次に，現状における子どもの読書活動について視点を変えると，2001（平成13）年12月12日に，「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行された．この法律は，子どもの読書活動推進に関する基本理念を定めるとともに，国および地方公共団体に対して，その推進に関する責務を明確化している．法律の目的は，子どもの健やかな成長に資することであり，その達成のため，国および地方公共団体が主体となって，すべての子どもが多様な機会と場面で自主的に読書活動を行えるよう，環境整備を推進することが掲げられている．さらに，子どもが言葉を学ぶことを通じて感性，表現力，創造力を高め，「生きる力」を身につけることが重視されている．

政府は，2002（平成14）年８月に，子どもの読書活動の推進に関する基本計画を策定し，家庭，地域，学校等の連携・協力を重視し，全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるように取り組んだ．子どもの読書活動の推進に関する基本計画は，おおむね５年ごとに改定されており，2008（平成20）年３月に第２次計画，2013（平成25）年に第３次計画が策定された．さらに，2018（平成30）年に第４次計画が策定され，現在は2023（令和５）年に策定された第５次計画に基づき取り組みが進められている．

第５次計画では，子どもの不読率の現状，新型コロナウイルス感染症の拡大，読書量・読解力の現状を踏まえ，①不読率の低減，②多様な子どもたちの読書機会の確保，③デジタル社会に対応した読書環境の整備，④子どもの視点に立った読書活動の推進を柱とした読書活動の推進を図ることが含められている．保育所・幼稚園に関連するところでは，就学前から本の読み聞かせ等の促進が含められている．第５次計画において不読率の現状について示されているが，いずれも小学校以上の就学している子どもの現状を示されているものであった．そのため，小学生，中学生，高校生と，いずれも数値目標を達成することができておらず，小学校の就学前の段階より，本を身近に感じてもらう必要がある．

子どもの読書活動を推進することは，読解力や想像力，思考力，表現力などの基礎的能力の育成に直結する．幼少期に絵本に親しむことは，就学後の読書習慣の形成にも寄与する重要な要素である．こうした背景を踏まえ，独立行政法人国立青少年教育振興機構は，大学や短期大学等の講義を通じて学ぶことができる「認定絵本士養成制度」を創設し，2019（平成31）年４月より運用を開始した．

認定絵本士とは，国立青少年教育振興機構内に設置されている絵本専門士委員会が定める「認定絵本士養成講座カリキュラムに関するガイドライン」（表２）に基づき，講座を開設している主に大学（学校教育法第83条），短期大学（学校教育法第108条），専門学校（学校教育法第124条）で取得することができる資格である．資格取得後は，講座にて取得した知識と技術を活かし，地域や職場において絵本の魅力や可能性を幅広く伝えることで，読書活動の充実へと寄与されることが

表２．認定絵本士養成講座カリキュラム（認定絵本士養成講座カリキュラムに関するガイドラインを参考に筆者作成）

分野	中分類	科目（コマ）名	時間
	オリエンテーション		90分
知識を深める	絵本論	絵本総論（絵本とは何か）	120分
		絵本各論①（絵本の歴史，絵本賞について）	120分
		絵本各論②（視覚表現，言語表現から見た絵本）	120分
		絵本各論③（子供の知的・社会的発達と絵本との関わり）	90分
		絵本各論④（メディアとしての絵本の位置づけ）	120分
	絵本の体系・ジャンル	さまざまなジャンルの絵本①（物語の絵本）	90分
		さまざまなジャンルの絵本②（昔話，童話を基にした絵本）	90分
		さまざまなジャンルの絵本③（科学絵本）	90分
	絵本と出会う	絵本と出会う①（はじめての絵本との出会い）	90分
		絵本と出会う②（保育・教育の場での出会い）	90分
		絵本と出会う③ （図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～）	90分
		絵本と出会う④（書店での出会い）	90分
技能を高める	絵本の世界を広げる技術	絵本の世界を広げる技術①（絵本を探す技術）	90分
		絵本の世界を広げる技術②（ワークショップ）	120分
		絵本の世界を広げる技術③（絵本コンシェルジュ術）	90分
	絵本を紹介する技術	絵本を紹介する技術①（ブックトークの技術）	120分
		絵本を紹介する技術②（書評・紹介文の書き方）	90分
		絵本を紹介する技術③ （支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割）	120分
	おはなし会の手法	おはなし会の手法①（おはなし会を開こう）	120分
		おはなし会の手法②（おはなし会のテクニック）	120分
感性を磨く	絵本の持つ力（さまざまな角度から絵本を見る）		90分
	心に寄り添う絵本（心のケアと絵本の可能性）		90分
	絵本のある空間（絵本のある望ましい空間とは）		90分
	子供の心をとらえるもの（子供の心をとらえて離さないもの）		90分
	大人の心を豊かにする絵本（人生で３度，絵本を手にする喜び，大人にこそ絵本を）		120分
	ホスピタリティに学ぶ（人を楽しませる為の手法を学ぼう）		90分
	絵本が生まれる現場	絵本が生まれる現場①（作家の感性に触れる）	120分
		絵本が生まれる現場②（絵本の編集）	90分
	ディスカッション（認定絵本士としての今後の活動）		90分

期待されている．

講座の開設には，講座責任者を筆頭に，事務担当者，講義担当者が中心となり，講座を開設する学科カリキュラムに講義として位置づける必要がある．

2025（令和７）年度現在，全国31都道府県64機関において養成講座が開設されている．この状況を踏まえ，本研究は，養成講座にかかる先行研究の概観を行い，保育者養成校における養成講座を受講することで期待される教育的意義について明らかにする．

Ⅱ．研究の方法

NII学術情報ナビゲータ（CiNii）を用いて，認定絵本士養成講座に関する先行研究の整理を行った．検索に用いたキーワードは「認定絵本士」とした．（最終検索日:2025（令和７）年４月９日）．検索の結果，14件が該当した．その内，養成講座の内容が記載されている５件を本研究における先行研究として概観を行った（表３）．その結果を踏まえて考察を加え，今後の課題を明示する．

Ⅲ．結　　果

１．認定絵本士の必要性と意義

綾（2022）と馬場（2021）は，認定絵本士の必要性と意義の観点を明らかにしている．

綾（2022）は，養成講座における「絵本を紹介する技術」に着目し，コミュニケーションの視点から分析している．話して伝える技術には，「絵本」を媒介にしながら，「話し手」と「聞き手」のコミュニケーションを図っている要素が含まれていることを挙げている．次に，書いて伝える技術には，書評や紹介文を通して，相手に内容を伝えることは，「書く人」と「読む人」との間に時間的・空間的な距離があることを提示している．その上で，講義実践では，どのような場所で誰に紹介するのか想定することを学生へ伝えている．

これらのことから，綾（2022）は，話術，話し方，間の取り方，話す内容の吟味，書く力，伝える力といったスキルの必要性を提言している．この提言内容は，保育者が子どもへ絵本の読み聞かせをする際に必要とされるスキルであると考えられる．保育者養成において，これらのスキルを修得することを目指す上で，養成講座はその一端を担うことにも繋がるのではないかと考えられる．

馬場（2021）は，フレーベルによる教育方法に着目し，現代における「絵本」の教育教材としての意義および教育方法について明らかにしている．

フレーベルによる教育方法では，「遊び歌絵本」を活用し，子どもの身近な大人が，子どもの発達段階や生活に影響する内面的な成長を見極めた絵本の読み聞かせを推奨している．

保育所・幼稚園等の保育現場における「絵本」の位置づけは，身近な保育において取り入れやすい教材であると共に，０歳～５歳までの幅広い年齢の子どもへ活用されている教材の一つである．また，保育士養成課程の各講義に視点を向けると，様々な講義において「絵本」を使用している現状が見られている．

一方，現状では絵本に関する教材研究や読み聞かせ技術の向上に十分な効果が認められていない

表３．認定絵本士養成講座に関する先行研究

発行年	著者	タイトル	出版者
2024	杉村 智子	認定絵本士養成講座授業「こどもと絵本」の効果検証：教員養成系学部学生が身につけたスキルを中心に	帝塚山大学子育て支援センター紀要５
2023	古川 元視 石川 千穂子	認定絵本士養成講座に関する意識調査研究の一考察	別府大学短期大学部/幼児・児童教育研究センターセンターレポート No.42
2022	綾 牧子	認定絵本士養成講座「絵本を紹介する技術」に関する一考察：ビブリオバトルをもとにコミュニケーションツールとしての視点から	教育研究所紀要（文教大学）
2021	青木 文美	保育者の絵本に対する認識調査：現役保育士と保育学生とを中心に	愛知淑徳大学論集. 福祉貢献学部篇（11）
2021	馬場 住子	認定絵本士の資格を持つ保育者養成の意義－フレーベル『母の歌と愛撫の歌』の教育方法を基に	甲子園短期大学紀要 39（0）

ことが指摘されている．その要因として，絵本に関する内容を専門的に学ぶ必修科目が存在しないため，絵本の歴史や特性，読書における課題を体系的に学び，技術や感性に触れる機会が乏しいことが挙げられる．

このような課題に対し，「認定絵本士」資格の取得には重要な意義がある．資格取得の過程では，絵本の定義や歴史，保育者として絵本の世界を広げるための技術，さらに絵本の著者の意図などを知識・技術として修得できる．その結果，保育者としての保育技術力，表現力，コミュニケーション能力の向上にとどまらず，地域における読書活動の推進にも寄与することが期待される．したがって，「認定絵本士」資格を取得する保育者養成は，教育実践者の育成という観点からも意義深い取り組みであるといえる．

2．認定絵本士と絵本の関係性

青木（2021）は，現役保育士と保育を学ぶ学生を対象に質問紙調査を通して，保育学生時代に修得しておくべき絵本に関する知識と技術を整理している．

現役保育士は，「絵本について勉強したい」との回答が93.3%（３年未満勤務），75.8%（10年以上勤務）であった．３年未満勤務の保育士が望む勉強内容では，絵本と発達との関わり，読み聞かせの方法・技術，絵本の種類，保育活動へのつなぎ方，絵本選びが挙げられている．一方で，10年以上勤務の保育士は，絵本の読み方，絵本と発達との関わり，絵本の効果が挙げられている．

また，現役保育士が，学生時代に学べば良かった内容として，絵本の種類，読み聞かせの方法・技術，保育活動へのつなぎ方，絵本の読み方，絵本の選び方などが挙げられている．

次に保育学生に対する調査では，絵本に特化した講義を履修している学生を対象に実施しており，絵本を知る，絵本選び，実習で知識が活きることを明らかにしている．青木（2021）の調査では，就職後の保育者にとって身近な教材であり，日常的に保育で用いられていることが読み取れる．

このように，「認定絵本士」と「絵本」の関係性は，日常的に行う保育の一部であることを明らかにしている．

3．認定絵本士の学びと資格取得後

杉村（2024）と古川・石川（2023）は，養成講座を受講することで修得できる学びおよび資格取得後における意義を明らかにしている．

杉村（2024）は，養成講座を受講している学生を対象に，養成講座における学びの内容を検証している．その結果，養成講座を受講することで，年齢段階に応じた絵本との関わりや絵本選びにおける内容の理解度が高く，同様に，保育や教育現場での絵本活動の意義や方法についても高い理解度が示された．

また，養成講座の受講動機には，保育士・幼稚園教諭免許状といった資格取得に加えて，教育現場における絵本を活用することが示されていた．

古川・石川（2023）は，養成講座の発展を図るため，養成講座を受講している学生を対象にアンケート調査を行っている．調査では，養成講座受講後，保護者や同僚にも絵本に関する活動をしたいとする学生自身の視野の広がりを明らかにしている．

このように，養成講座を受講することで，子どもの年齢に応じた絵本との関わり方や選本における内容理解を学び，この学びを活かして就職後に保護者や同僚へ絵本に関する活動を展開できる保育者になることが見込まれる．

Ⅳ．考　　察

本研究の結果より，養成講座を受講することにより，①子どもの発達段階に応じた絵本との関わり方に基づく「保育技術力」，②絵本の読み聞かせ方法に裏づけられた「表現力」，③就職後に保護者や同僚へ絵本活動を展開する際に必要となる「コミュニケーション力」を修得できることが示された．以下に，①認定絵本士の必要性と意義，②認定絵本士と絵本の関係性，③認定絵本士の学

びと資格取得後についての視点から考察する．

１．認定絵本士の必要性と意義

先行研究では，認定絵本士の資格取得の意義について整理を行った．認定絵本士の資格を取得するためには，定められた養成カリキュラムを受講する．受講内容には，先行研究で示された絵本論（絵本の定義や歴史），絵本の世界を広げる技術，絵本制作の現場における作り手の意図の理解に加え，絵本の体系やジャンルを学ぶ「絵本の体系・ジャンル」がある．また，絵本と子どもをつなぐ方法を学ぶ「絵本と出会う」，絵本を探す技術やワークショップを通じて理解を深める「絵本の世界を広げる技術」，さらに絵本を他者に紹介する方法や支援を必要とする人への伝え方を学ぶ「絵本を紹介する技術」，絵本に関する感性を養う分野など，多岐にわたる内容が含まれている．

保育者を目指す学生が，養成講座を受講することで，絵本に関する知識，技能，感性を修得することができるものである．養成講座を設置している学校等は，これらの内容を既存の科目への組み込みまたは新設科目により学べるようにしている．そのため，保育者を目指す学生は，保育士資格および幼稚園教諭免許状の取得のための科目の履修に加えて学ぶこととなる．ただし，学生自身への負担が大きいものではなく，他の科目においても教育的意義のあるものであると考える．

保育所保育指針・幼稚園教育要領に示されているように，幼児には，日常生活に必要な言葉が分かるようになるために，絵本や物語を通した保育・教育が必要である．この保育・教育を行う保育者には，保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえた絵本に関する専門的な知識と技術が求められる．保育者養成校のカリキュラムの一部である保育内容演習における「言葉」の領域における内容には，経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し，相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て，言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うことが示されている．言葉に対する感覚や言葉で表現することを具体的に学ぶことは，この「保育内容演習」に位置づけされる講義（例えば，保育内容（言葉）など）で開設されていることが多い．この講義に加えて，養成講座の講義を受講することで，絵本を通した言葉の感覚をさらに向上することができるものである．また，他者とのコミュニケーションにおいて重要となる言葉による表現力は，子どもの年齢に適した絵本を活用する技術を学ぶことで育まれる．この技術によって，保育者が子どもへ多様な言葉による表現方法を伝えることが可能となり，子どもたち自身が「言葉の多様性」を豊かに獲得することができると考える．

認定絵本士は，保育者養成課程における既存科目との関連性が高く，両者を合わせて学ぶことで相乗的な効果が期待される．そのため，保育者を目指す学生にとって，認定絵本士の資格は現代の保育者に求められる知識・技能・感性を修得し，専門性の向上に寄与する教育的意義を有している．

２．認定絵本士と絵本の関係性

先行研究では，保育者養成校にて保育者を目指す学生が養成講座を受講することで，絵本を知ることができ，子どもに適した絵本の選び方を修得することができたために，実習時における絵本の活用方法が役に立ったとすることを明らかにしていた．また，保育者として就職後，絵本が日常的な保育において広く活用される身近な教材であることを確認した．

認定絵本士は，講座にて修得した知識と技能を活かし，地域や職場において絵本の魅力や可能性を幅広く伝えることで，読書活動の充実へと寄与されることが期待されていた．保育者における読書活動の充実とは，保育所や幼稚園に通う子どもを対象に，絵本の読み聞かせなどを通じて子どもの興味や関心を引き出し，言葉を使った他者とのコミュニケーションを深めることを指す．また，物語を楽しむ体験を通じて語彙を増やし，豊かな表現力を育む保育を行うことである．

こうした背景から絵本は，保育者にとって身近

な教材であると同時に，子どもや保護者にとっても身近な存在である．特に，保育所や幼稚園における保育・教育の実践においては，降園前に保育者が絵本の読み聞かせを行う場面が日常的に取り入れられていることから，子どもが家庭で保護者と読み聞かせの内容について語り合う機会も生じている．このような実践は，親子間のコミュニケーションを深めるとともに，子どもの感性や読書習慣の形成に寄与する教育的意義を有している．

絵本と触れ合うことを増やすために，自治体の取組みとして絵本を贈呈する事業（以下：ブックスタート）がある．

ブックスタートとは，子ども（０～１歳児）を対象に，「絵本」を自治体がプレゼントする事業である．これは，子どもと保護者が，絵本を介して心がふれあう時間を持つきっかけづくりを目的としている．実施している自治体は，全国で1,522区町村（87.4％）である．主な主管部署では，図書館・図書室，生涯学習課・社会教育課，保健センター・健康推進課，子育て支援課・こども課・福祉課など「絵本」や「子ども」を所管する部署である．特に，０歳児健診などの機会を活用していることから，子どもを所管する部署が中心的に担っている．保護者は，子どもと一冊の絵本を共に楽しむことで，親子間のコミュニケーションおよび子どもの感性の育成につながることが期待される．すなわち，「認定絵本士」と「絵本」の関係性は，先行研究で示されていたように，絵本と子どもの発達との関わり，読み聞かせの方法・技術，保育における絵本の役割といった「資格」と「絵本」の関係性に留まらず，「子ども」と「絵本」をつなぐ架け橋となることが期待されるものである．それは，認定絵本士の資格を取得することにより，保育所・幼稚園において，子どもたちを引き寄せる絵本の読み聞かせを行うことや，ブックスタートなどの絵本を活かして，地域における子どもと保護者への読書活動の推進へとつながることが期待されるものである．

３．認定絵本士の学びと資格取得後

先行研究では，保育者を目指す学生が，養成講座を受講することで，子どもの年齢に応じた絵本の選本に関する内容理解が深まったことにより，保育や教育現場における絵本の活用方法についての意義が高まったことが示されていた．

養成講座は，絵本の作家や出版をはじめ，絵本の種類，他者への絵本紹介方法，おはなし会の手法に至るまで，絵本に関する幅広い内容が含められている．

保育者養成校における教育カリキュラムにおいては，保育士養成カリキュラムと幼稚園教諭養成カリキュラムを柱としている．しかし，これらのカリキュラムでは，絵本に特化した科目は設置されていない．そのため，一部の養成機関では，ゼミナールに該当する講義や，養成機関の特色を活かした講義において，絵本の活用方法を学ぶ取組みを行っていることが挙げられる．その点から考察すると，養成講座を保育者養成校における教育に加えることは，各講義で取り扱っていた絵本に関する内容を集約することを可能とし，学生自身へ資格を付与することで自己肯定感の向上に寄与できる教育的効果が高いものであるとの見方もできる．

加えて，認定絵本士資格取得後には，先行研究が示すように，絵本に関する活動への意欲が高まり，受講者の視野の広がりが見られていた．保育者養成校における学びは，保育者への就職を着地点に目を向けられがちではあるが，養成講座を受講することで，就職後のビジョンを描くことへの広がりが見られていた．つまり，学生自身のキャリア形成にも影響することが見込まれる．

このように，認定絵本士の学びには，養成講座を受講することによる絵本に関する幅広い知識と技術を修得することができ，保育実習や教育実習にも活かすことができるものである．それは，資格取得後における就職時においても，活かすことができる知識と技術であり，保育者を目指す学生が養成講座を受講することに，有意義な教育的意義があるものであると考える．

Ⅴ．今後の課題

本研究では，保育者養成校における養成講座にかかる先行研究の概観を行い，養成講座を受けることにより期待される教育的意義について明らかにしてきた．その結果，養成講座を受講することにより，①子どもの発達段階に応じた絵本との関わり方に基づく「保育技術力」，②絵本の読み聞かせ方法に裏づけられた「表現力」，③就職後に保護者や同僚への絵本活動を展開する際に必要となる「コミュニケーション力」を修得できることが示された．

養成講座の開設は，全国的に展開されている状況ではないが，先行研究の検討を通じて，保育者を目指す学生が養成講座を受講することにより，絵本に関する知識と技術の修得にとどまらず，キャリア形成の可能性が示唆されている．

子どもへの保育の視点からも，養成講座は，保育内容の「言葉」における領域で関わるところであり，保育所保育指針・幼稚園教育要領ともに強い関連性を有している．

養成講座を受講した保育者による保育は，保育所・幼稚園から小学校への円滑な接続を支え，就学後の読書活動推進にも寄与する．ただし，養成講座を受講していない保育者による保育を受けた場合でも，子どもは当然ながら小学校へ就学するため，講座の意義は就学ではなく質的な効果にある．

今後の課題は，本研究において先行研究から読み取れる教育的意義の考察に留まっているため，具体的な調査研究が必要である．例えば，①養成講座を受講する学生の視点，②養成講座を受講して保育者としての保育実践における視点，③養成講座を受講した保育者の保育を受けた子どもたちの視点が挙げられる．

注

1）子どもの最善の利益とは，子どもに関することが決められ，行われる時は，「その子どもにとって最もよいことは何か」を第一に考えることである．

2）児童福祉法　第39条

3）学校教育法　第22条

4）学校教育法　第23条４

引用・参考文献

青木文美（2021）「保育者の絵本に対する認識調査：現役保育士と保育学生とを中心に」『愛知淑徳大学論集．福祉貢献学部篇』11，56-63.

綾牧子（2022）「認定絵本士養成講座「絵本を紹介する技術」に関する一考察：ビブリオバトルをもとにコミュニケーションツールとしての視点から」『教育研究所紀要（文教大学）』31，59-70.

馬場住子（2021）「認定絵本士の資格を持つ保育者養成の意義－フレーベル『母の歌と愛撫の歌』の教育方法を基に」『甲子園短期大学紀要』39（0），23-29.

絵本専門士委員会（2022）『認定絵本士養成講座カリキュラムに関するガイドライン』絵本専門士委員会.

絵本専門士委員会　独立行政法人国立青少年教育振興機構（2024）『認定絵本士養成講座テキスト　第２版』中央法規出版.

古川元視・石川千穂子（2023）「認定絵本士養成講座に関する意識調査研究の一考察」『センターレポート（別府大学短期大学部/幼児・児童教育研究センター）』42，2-8.

こども家庭庁（2025）「保育士の有効求人倍率の推移（全国）」（https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e4b817c9-5282-4ccc-b0d5-ce15d7b5018c/60df4dce/20250416_policies_hoiku_137.pdf，2025. 8. 18）.

こども家庭庁（2025）「児童の権利に関する条約」（https://www.cfa.go.jp/policies/international/convention，2025. 8. 18）.

国立国会図書館国際子ども図書館（2025）「読書活動推進に関するこれまでの動き」（https://www.kodomo.go.jp/promote/plan/history.html，2025. 8. 15）.

文部科学省（2024）『第２回保育人材確保懇談会

資料５』こども家庭庁
（https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/6615aa32-376c-41c7-aba3-85eaaebead0d/7582bc65/20241202-councils-hoikujinzai-6615aa32-06.pdf, 2025. 8. 8）.
NPO法人ブックスタート（2025）「赤ちゃんへの絵本贈呈事業に関する全国調査2024」
（https://www.bookstart.or.jp/5685/，2025. 8. 23）.
杉村智子（2024）「認定絵本士養成講座授業「こどもと絵本」の効果検証：教員養成系学部学生が身につけたスキルを中心に」『帝塚山大学子育て支援センター紀要』5，11-20.

受付日：令和７年10月16日
受理日：令和７年12月15日

Bulletin of Kochi Gakuen University / Kochi Gakuen College, No. 56（2026） pp. 19-30

Review paper

The Professional Picture Book Specialist Training Course Develops the Expertise of Childcare Workers —Consideration of Educational Significance Based on Research Review—

Ryo DATE[1]*

Abstract: This study aimed to clarify the educational significance of Certified Picture Book Specialist training courses offered at childcare professional training institutions, including childcare worker and kindergarten teacher training schools, through a comprehensive review of prior research. The findings show that students aspiring to become childcare professionals can acquire three major competencies through these certification courses: (1) technical childcare skills developed through understanding children's developmental stages and learning to select and use picture books appropriately; (2) expressive skills cultivated through practicing effective reading and storytelling techniques that stimulate children's imagination and emotional expression; and (3) communication skills necessary for conducting picture book activities collaboratively with parents, colleagues, and communities. Picture books are deeply connected to children's overall development and play an essential role in fostering linguistic abilities, creativity, and empathy during early childhood. They are explicitly positioned as a means of "communication through words" in both the Guidelines for Nursery School Care and the Kindergarten Education Curriculum Guidelines, highlighting their importance in early childhood education. Moreover, obtaining the Certified Picture Book Specialist qualification not only enhances students' professionalism and confidence as future childcare workers but also contributes to their individual career development by deepening their understanding of the educational and cultural value of picture books. Further, this qualification can promote literacy and community engagement by fostering cooperation among families, libraries, and local educational institutions. Future research should focus on accumulating empirical evidence to verify the effectiveness of these training courses from the perspectives of students, practicing childcare professionals, and children in actual educational settings.

Key Words: the professional picture book specialist , childcare worker training school , picture books , expertise of childcare workers , narrative review

[1] Kochi Gakuen College, Department of Early Childhood Education and Care, *Email: rdate@kochi-gu.ac.jp